

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果と 学力向上の取組方針について

清水町教育委員会

● 全体的な傾向

平成29年4月に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果、教科に関する調査の平均正答率は、小学校では国語A、国語B、算数A、算数Bの全ての教科で全国平均を上回り、中学校では国語A、国語Bが全国平均を上回りましたが、数学Aが全国平均を下回り、数学Bは全国と同じレベルの結果でした。

学習状況調査では、小学校においては、生活習慣や学習習慣、規範意識が定着しており、言語活動・読解力について高い傾向が見られますが、国語への関心が下回っている状況です。また、中学校においては、生活習慣や規範意識が定着しています。一方、昨年度と比較して学習習慣や自尊感情、学習への関心は低下している傾向がうかがえます。

“しみず「教育の四季」”を実践指標として、学校、家庭、地域が織りこみで心をかよわせ感性豊かな教育に取り組んでいますが、調査結果で明らかになった課題を踏まえ、今後も各学校、家庭、地域において、子どもたちの学力向上のための効果的な取組を意欲的に充実していくことが大切です。

学力とは

基礎的な知識や技能を習得して、課題を解決するための思考力や判断力、表現力などの能力とともに、学ぶ意欲なども含めたものです。

今回の調査は、こうした学力のうち、教科に関する調査での設問で、主として「知識」に関する問題（A）と、主として「活用」に関する問題（B）について調査したものです。

また、教科に関する調査のほかに、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面などを質問紙調査で聞きました。

主として「知識」に関する問題・・・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

主として「活用」に関する問題・・・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

平成29年度 全国学力・学習状況調査

【ねらい】

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

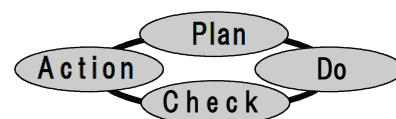
【調査方法】

- 対象学年の全児童生徒を対象に調査を行う。
- 清水町は全小・中学校4校が実施した。

【実施日】平成29年4月18日（火）

【学年・教科など】

- 教科に関する調査（国語、算数・数学）、生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
- 小学校6年生・中学校3年生の全児童生徒



小学校6学年 調査結果概要

教科に関する調査の結果

国語A、国語B、算数A、算数Bの全ての教科について、平均正答率が全国平均を上回りました。

◆小学校6学年調査問題の趣旨・内容

- 国語A－互いの話を聞き話し合うことや目的や意図に応じて、必要情報を読むことができるか。登場人物の人物の心情について考えをまとめるなど基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題
- 国語B－スピーチの練習や文書の作成、読書感想の発表をもとに、自分の考えの伝え方や構成をまとめて、広げたり深めたすることなどから、基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題
- 算数A－乗法の性質を用いて、小数の計算の仕組みを考える。量の比較や測定、多角形の性質を見極める設問などから、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題
- 算数B－問題場面から見出した数量の関係を考察したり、一般化することができるか。日常生活の問題解決のために示された方法を解釈・表現するなど基礎的・基本的な知識・技能を活用できるかどうかをみる問題

○町内小学校6学年の学力の傾向

国語A、国語B、算数A、算数Bの全ての教科において、全国を上回る平均正答率であり、基礎的・基本的な知識・技能に加えて、基礎・基本を活用することについてもほとんどの児童が一定程度身に付いていると言えます。

○課題と対応

国語Aについて「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の学習指導要領の領域やそれぞれの能力、問題形式においては、「話すこと・聞くこと」は全国平均を上回っていますが、「書くこと」「読むこと」の平均正答率が、全国平均を下回っており、質問の意図をしっかりと読み取り、内容を捉えたり整理して記述することについて課題があると言えます。

今後も、家庭・学校・地域が連携して、生きる力をもった大人に育てていくため、家庭で保護者とともに読書をしたり、読んだ内容について、自分の考えを整理して伝え、そのことに対する質問を考えたり、聞き合ったりするなど、日常から実践していくことが大切です。

中学校3学年 調査結果概要

教科に関する調査の結果

平均正答率は、国語A・国語Bにおいては全国平均を上回りました。数学Bは全国平均と同レベル、数学Aは全国平均を下回りました。

◆中学校3学年調査問題の趣旨・内容

- 国語A－物語の下書きを書き、助言を基に書き加えたりする。文学的な文章を場面展開や人物描写に注意して読み理解を問う設問などから基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題
- 国語B－スピーチのリハーサルを想定し論理的な構成や展開を考える。文学作品を紹介する冊子を作成するための情報収集の方法を問う設問などから、基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題
- 数学A－正の数と負の数とその計算や文字式の計算をする。連立二元一次方程式を解く。一次関数のグラフ数値を求める設問などから、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題
- 数学B－ダム貯水量と節水についての表やグラフから情報を読みとり、一次関数の式を用いて説明する設問などから、基礎的・基本的な知識・技能を活用することすることができるかどうかをみる問題

○町内中学3年生の学力の傾向

国語A、国語Bにおいて、全国の平均正答率を上回り、数学Bにおいては、ほぼ同レベルの平均正答率であり、多くの生徒が学習内容を理解し、全体的に基礎・基本の定着や活用することも身に付いていると言えますが、数学Aは全国平均を下回っており課題も見られます。

○課題と対応

数学Aの「資料の活用」に関する領域について、昨年と同様全国平均を下回っており、与えられた数値の「範囲」の意味や「相対度数」の求め方を理解することなど課題が見られました。

また、家庭・学校・地域が連携して、生きる力をもった大人に育てていくため、毎日必ず家庭学習に取り組む習慣を付けるための時間を、家族で保障してあげることなど、家族みんなが協力し支援することが大切です。

調査結果から次のような指導改善の視点が明らかになりました。

◎小学校

国語

◇学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり書いたりすることができるかどうかをみる指導の充実

- ・漢字を正しく読み、正しく書く力は、文や文章を理解したり表現するために必要な知識や技能であり、大変重要です。また、国語科の学習のみならず、**各教科の学習の基礎となる力**であり、日常生活に欠かせないものです。
- ・習得した漢字を正しく読んだり書いたりするためには文や文章の意味を理解することが必要であり、繰り返し書いて練習することとともに、様々な場面で漢字のもつ意味を考えながら使うように指導することが大切です。
- ・語彙を広げるためには、日常的に辞書を利用して調べる習慣を付けることが大切であり、辞書利用についての学習において意図的・計画的に指導する必要があります。また、書いた文章を互いに読み合い、意味を考えながら正しく使用しているかどうかを評価し合う機会を設定したり、「対象」「対照」などの同音異義の漢字や「親」のように複数の読み方をもつ読み替え漢字に注意しながら文を作成し、それぞれの漢字の意味を理解する指導の充実が必要です。

●各家庭での実践

- ・保護者も家庭での読書「家読（うちどく）」を実践して、家族全体で読書に親しみ、読書習慣の定着を図りましょう。
- ・家族で同じ本を読み、書かれている漢字について親子で話し合うなど読書を楽しみ漢字に興味をもつような環境を意図的・計画的に作りましょう。

算数

◇乗法の性質の理解の上に立って、小数の情報の計算の仕方を理解できるかどうかをみる指導の充実

- ・小数の乗法の計算において、小数の仕組みを確認し、乗法の性質を用いて、計算を考えることができるようにすることが大切です。
- ・指導に当たっては、例えば 60×0.4 が $60 \times (0.4 \times 10 \div 10)$ と等しくなることから、乗法の性質が成り立つことを確かめ、それを基に 60×0.4 を $60 \times 4 \div 10$ に直して計算することができることを確認する指導などが考えられます。

◇整数の除法の結果は、分数を用いると常に一つの数として表すことができることを理解できるかどうかをみる指導の充実

- ・整数の加法や乗法については、その計算結果を常に整数で表すことができるが、除法については、例えば $5 \div 9$ を小数で表そうとすると 0.5555 となる。分数を用いれば表すことができることを、除数と商の分子、分母の関係を理解することが大切です。
- ・指導に当たっては、図や数直線を使って考える場面を設定し、 $5 \div 9$ の場合、5Lの図を9等分し、その一つ分が $5/9$ Lになることを実感的に理解するようにする指導が考えられます。

◇未知の数量を表す口を用いて、問題場面の除法の式にできるかどうかをみる指導の充実

- ・未知の数量を口などの記号を用いて表現すると、文脈どおりに数量の関係を立式できることに気付くことが大切であり、この経験は例えば、中学校第1学年での一元一次方程式の学習に役立つことにもなります。
- ・指導に当たっては、「はじめに何枚かもっていたシールを5人で等しく分けたら、1人10枚づつになりました」という問題の「はじめに持っていた枚数を口にする」など口が表す数量を明確にすることが大切であること、また、それぞれの式のからどのような問題場面や図が想像できるかを話し合う指導などが考えられます。

●各家庭での実践

- ・家庭の中でも「お菓子を家族4人で分けたら、一人5個になったけど、はじめに何個あったのかな。」など、身近な場面で考えてみましょう。
- ・家庭学習の仕方について、家庭と学校の連携により、自分で課題を見付けられるような内容の充実を図っていきましょう。

◎中学校

国語

◇語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使えるかどうかをみる指導の充実

・語感を磨き、語彙を豊かにするためには、ことわざや慣用句、故事成語などの意味を確認するとともに、相手や場面での置き換えなどを考える学習活動の充実が必要です。

◇文書の構成を工夫してわかりやすく書くことができるかどうかをみる指導の充実

- ・指導に当たっては、伝えたい事柄や意見などを読み手に分かりやすく伝えるためには、事柄や意見を明確にし、どのような順序で示すことが効果的かを考えることが大切です。
- ・課題に関連した材料を集めて自分の考えをまとめるために、本、新聞・雑誌、テレビ、コンピュータや情報通信ネットワークを活用したり、インタビューやアンケートを行ったりといったことを必要に応じて行う指導の充実が必要です。

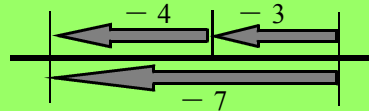
●各家庭での実践

- ・幅広く様々なジャンルの本を読む習慣を付け、家族と本に書かれていた内容や使われている言葉について話し合ったり、新聞記事やテレビニュースなど見聞きしたことなどについて家庭で話し合うなど、日常から実践していきましょう。
- ・学んだことを身に付けていくためには「授業に集中すること」と「家庭学習」が重要です。その日に学習した漢字や語句などを確認したり、分からないことはそのままにしないで、家族が教えるなど家庭学習がしやすい雰囲気を作りましょう。

数学

◇正の数と負の数の四則計算の意味について理解しているかどうかを見る指導の充実

- ・正の数と負の数の四則計算の意味を理解できるようにするためには、数直線を用いるなどして確認することが考えられます。
- ・例えば a を -3 、 b を -4 とすると、 $a+b$ は $(-3) + (-4)$ に結果は数直線を用いることによって、 -7 であることが分かり、矢印がいずれも負の方向を向いている（下記参照）ことから計算結果は、必ず負の数となることを説明するなどの指導の充実が必要です。



◇簡単な連立二元一次方程式を解くことができるかどうかをみる指導の充実

- ・二つの文字のうち一方の文字を消去して一元一次方程式に帰着させればよいという考え方を理解させる指導の充実が必要です。
- ・授業を行う際には、加減方や代入法を用いて解き、それぞれの解き方を比較して、共通する考え方を理解したり、それぞれの解き方のよさを実感したりすることができる場面を設定するといった指導の充実が必要です。

◇目的に応じて資料を収集し、表やグラフに整理し、その傾向を読み取ることができるかどうかをみる指導の充実

- ・資料の最大値と最小値との差である「範囲」や「相対度数」などの意味を理解した上で代表値を求めたり、資料の分布の様子を捉えたりする場面を設定し、資料の傾向を的確に捉えて判断できるように指導することが必要です。
- ・指導に当たっては、平均値が代表値としてふさわしいかどうかを資料の分布の様子から検討し、判断する場面を設定することが考えられます。
- ・資料の数値等の分布の特徴を捉えて説明すべき事柄とその根拠を明確にして、説明できるようにすることが大切です。その際、判断の理由を最頻値など代表値を用いて、簡潔に分かりやすく説明できるようにする指導の工夫が必要です。

●各家庭での実践

- ・授業で学習した内容を、復習をし確認するとともに、予習を習慣付けしていくことで授業の内容を理解することが容易になります。
- ・日常生活の中で、ある問題の解決について話題にし、様々な情報からどんな情報が有効なのかお互いの考えを話し合うことなどを実践しましょう。

質問紙調査の結果

小学生は生活習慣、規範意識など全国基準を上回っていますが、学習習慣については昨年度と比較して低下傾向が見られ、改善に取り組む必要があります。中学生は、生活習慣、自尊感情は全国基準を上回っていますが、学習習慣は昨年度と比較して低下し、また各教科への関心が低下傾向にあり留意する必要があります。

◇質問紙調査の趣旨・内容

学力の状況のみならず、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する質問紙調査を実施し、学力とその相関関係等を分析します。学力との相関については、①学習に対する関心・意欲・態度②自尊意識・規範意識③言語活動・読解力④生活習慣⑤学習習慣などの項目について調査が行われました。

町内の児童生徒の学習習慣や生活習慣等の傾向

小学校6学年児童では、全国基準と比べて、復習や宿題をしている、友達との約束を守る、学校のきまりを守るなどについて高い傾向にありました。家庭での学習時間、読書時間については全国に比べ少ない（「まったくしない」という比率は低いが、時間が短い）状況が見られました。

中学校3学年生徒では、全国基準と比べて、友達との約束を守っている、人が困っているときは進んで助けるなどについて高い傾向にありました。家庭学習や読書の時間は少ない傾向にあり、学習に対する関心については、昨年と比較すると国語・数学ともに関心度や授業内容の理解度が低下している状況です。

改善の方向性

○知識の理解の質を高め、資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」の学習プロセスを重視し、確かな学力を確立するための学習活動を充実しましょう。

◇知識・技能の確実な定着を図る指導の工夫改善に努めましょう。

□基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるため、体験的な理解を重視した学習活動や、授業の最後に「まとめ」「振り返り」をしっかりとる学習指導の工夫改善を図る。

□一人一人の習熟度等に応じたきめ細かな指導を一層充実する。

◇思考力、判断力、表現力等を高める指導を充実し、実際に課題を探究する活動の実践に努めましょう。

□観察・実験、レポートの作成、論述などの学習活動を発達段階に応じて充実し、教科において記録、要約、説明などの学習に取り組むことで、学びに向かう力や人間性を養う。

□総合的な学習の時間における教科等を横断した探究活動を充実する。

○「教えて考えさせる授業」の展開など学習意欲の向上につながる指導の工夫改善に努めましょう。

□児童生徒の学習意欲を高める「分かる授業」「自ら考える授業」の実践研究を推進し、児童生徒の自立性を促すことができるよう教師の授業力を高める。

□地域の人材や加配教員の活用を含め、多様な指導者による少人数指導、チーム・ティーチングや習熟度に応じた、多様な指導の充実を図る。

○家庭・学校・地域が相互に連携し、学習習慣や基本的な生活習慣の育成を図るための活動を充実しましょう。

□家庭学習の前に1～2分でできる簡単なプリントを繰り返して行ったり、保護者が学校での授業内容を尋ねるなど、学習への意欲と集中力を育てる工夫をする。

□勉強時間を決めて表示したり、テレビを消す時間を設けるなど、子どもが時間を意識した生活習慣の改善を図り、生活リズムの中に家庭学習時間を確保する。

○読書に対する意欲を高め、読書活動を活発にする取組の一層の充実を図りましょう。

□全校一斉の読書活動を推進し、学校図書館の活用を図る。

□毎月19日の「しみず読書の日」を意識して、読書の習慣化を図る。

◎28年度の教研式標準学力検査CRTによる子どもの学力（小3、小5「国語・算数・理科」中2「主要5教科」）の結果から十勝子どもたちには次の傾向が見られました。

・小学校3学年、5学年では、3学年の国語、理科以外が全国を下回りました。

・中学校2学年では、国語以外で全国を上回りました。

◎本町の子どもたちについては、次の傾向が見られました。

・小学校3学年では、全教科で全国を上回りました。

・小学校5学年の全教科、中学校2学年の国語・英語で全国を下回りました。

教育研究所との連携

清水町教育研究所では、こうした調査の結果を受けて、十勝教育研究所と連携し、教育課程や授業の工夫改善、家庭学習の推進に取り組んでいきます。各学校においては、研究所の研究成果を参考にするとともに、各学校において常日頃より実践研究に取り組んでいただくなど、連携を図りながら、町内の児童生徒の確かな学力の育成に努めていきます。